

きらめき

～光の子として歩みなさい～

(聖書 エフェソの信徒への手紙5章8節)

NO.12

Dec.2024

学校法人岩手キリスト教学園機関誌

特集 明日へ歴史をつむぐ

元学園理事長 太田春夫先生に聞く

青山幼稚園 創立70周年記念式典

書家 金澤泰子さん、翔子さん特別講演

IWATE CHRISTIAN
EDUCATIONAL INSTITUTION

命と尊厳を保証する救い

岩手キリスト教学園
認定こども園宮古ひかり
認定こども園めぐみ遠野聖光こども園
日本キリスト教団宮古教会

副理事長
園長
園長
牧師

もりわけ
森分

かずき
和基



「見よ、おとめが身ごもつて男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」

この名は、「神は我々と共におられる」という意味である。

(マタイによる福音書1章23節)

聖書に記されているイエス様のお誕生は、楽しい・嬉しいことばかりではありません。

むしろ、悲しく、苦しい思いをしている人たちが登場していると言っても良いのかもしれませんが。母マリヤは現在では少女と言える年齢だったと言われていますし、羊飼いは貧困と蔑視の対象として記されています。博士が登場することによって、2歳以下の男の子が殺されるという残忍な場面につながってしまいます。そのような状況の中でイエス様はお生まれになります。

イエス様は、悲しく、苦しい思いをしている人たちのためにお生まれになり、愛と平和をもたらす救いをお与えになります。イエス様の救いは「命と尊厳をどこまでも保証する」ということだと信じています。

現在も貧困は大きな問題で6秒に

1人が餓死していると言われていました。世界中の50近くの場所で戦闘による紛争が続いています。多くの人たちがその犠牲になっているのです。日本において、若年齢層の自殺率は世界でもワーストトップクラスと言われています。若い人たちにとつてこの国は生きやすい国ではなくなってしまうたのかもしれない。

そして、他者と違っていることは、表だって表明することができず、結果、カスターマー・ハラスメントや誹謗中傷というような形でしか、意思表示することができないようになっていのように思えてなりません。

その意味で、今の時代は、「命と尊厳が軽んじられる社会」になってしまっているように感じています。尊厳が保証されていないから、安心して自分の思いを表現することすらできなくなっているのでしょうか。このような時だからこそ、イエス様が示された「命と尊厳をどこまでも保証する」ということが大切なのだと信じています。言い方を変えたと金

子みずゞ氏が「私と小鳥と鈴と」という詩で語られている「みんなちがって、みんないい。」ということだろうと思います。

これからと、生きづらくなることが予想される中、これから生きる子どもたちには、園の中で、満足するまで遊び続けること、自分で選択すること、何度も挑戦すること、様々なことを話し合い解決する力を身につけることを経験し続けてほしいと願っています。

命の危機に瀕している人たちに、貧困や飢えに苦しんでいる人たちに、病の中にある人たちに、孤独を抱えている人たちに、生きづらさを抱えている人たちに、イエス様が来てくださったように、真の平和が訪れることを願ってやみません。岩手キリスト教学園に連なるそれぞれの施設において、その平和の実現のために丁寧な保育を志していきたいと思えます。



1985年に発足した岩手キリスト教学園は来年創立四十周年の節目を迎えます。遠野聖光幼稚園（現・認定こども園めぐみ遠野聖光こども園）と青山幼稚園の2園でスタートした学園に、1986年日詰幼稚園（現・認定こども園ひかりの子）、1988年のぞみ幼稚園（現・認定こども園のぞみこども園）、1993年ひかり幼稚園（現・認定こども園宮古ひかり）が加入しました。基幹園である5園は教会が生み出した幼児施設で、百年を超える歴史を刻んだ園もあります。神に守られ、恵みを与えられた存在として子どもを捉え、子どもと保育者が共に育つことを願う「キリスト教保育」を大切にしています。

3歳未満児の保育ニーズの高まりを受け、基幹園の連携施設として2020年には0〜2歳児を対象にした上堂ホサナ保育園（盛岡市）、アガペ保育園（紫波町）が、2022年には家庭的保育事業のぶどうのきが開園。2023年には盛岡市の公立保育所だった、きたくり保育園の運営を同市から引き継いで現在に至っています。学園の発足には、どんな苦労があったのでしょうか。少子高齢化が進み社会が激変していく中、学園はどこを目指していくべきでしょうか。学園発足当時、遠野教会牧師、遠野聖光幼稚園園長として学園誕生を牽引した太田春夫先生（元学園理事長）にお話を伺いました。

明日へ歴史をつむぐ

岩手キリスト教学園 設立40周年へ
元理事長 太田春夫先生に聞く

太田春夫（おおた はるお）

1952年12月29日生。日本基督教団遠野教会、金石大渡教会、新生金石教会、千代田教会、須賀川教会の牧師を歴任。2023年4月より隠退教師。学校法人岩手キリスト教学園の設立に関わり、理事・理事長、学園内5つの幼稚園長を歴任。栄光学園（福島県）でも理事長・園長を務めた。青山学院大学神学科卒業・農村伝道神学校継続教育コース修了、立教大学大学院組織神学専攻博士課程前期課程修了。



2024年7月、認定こども園宮古ひかりで園児たちに絵本「たんぽぽ」を読み聞かせし、深く根を張る大切さを語る太田先生

学校法人化の波

1970年代から80年代、国は少子化と保育ニーズの変化を踏まえ、幼児教育の重点化を図るため、私立幼稚園の学校法人化を促進します。学校法人が経営する幼稚園とそうでない幼稚園とは施設整備から経常的経費の助成まで大きな差が生じることになりました。

県内の教会附属の幼稚園は「キリスト教保育」を堅実に進めていましたが、多くの園で園舎の老朽化や、園児数の減少など課

題を抱えていました。課題が顕著になる中、太田先生は1981年4月に遠野教会牧師に着任。遠野聖光幼稚園第10代園長を務めることになりました。

遠野聖光幼稚園は1921年、バプテスト派の宣教師で、仙台の尚綱女学院校長でもあった米国女性アンネ・S・ブゼル先生（1866〜1936）により遠野で初の幼児施設として開設されました。ブゼル先生は就学前の子どもたちへの教育はもちろんのこと、あらゆる階層の人々と分け隔てなく関わり、遠野に新しい風を吹き込みました。モットーは「キリストを語らず、イエスを生きる」。ケーキやブドウ液を作って地域の人たちと分かち合い、病人を見舞ったり、臨時保育園を開いて農繁期の間、無償で農家の小さな子どもたちを預かったり。そうした献身の土台に歴史を刻んだ幼稚園は、多くのまちの人の信頼を得て、愛されていました。

しかし、戦前から使われていた教会の会堂と園舎は老朽化が著しく、建て替えが急務。資金を集め、幼稚園を維持し、発展させていくためには、学校法人化が避けられない状況だったといえます。県内の教会、キリスト教主義の幼稚園も似たような状況にあり太田先生は「連合学園」による学校法人化を構想し呼び掛けますが、道のりは簡単ではありませんでした。

教会と幼稚園は両輪

「教会の土地に園舎が建っていて、教会の建物を園と共有しているわけです。学校法人化するためには、その教会の土地や建物を学校法人に寄附しなければなりません。そんなのは駄目だと。当然、慎重論もあるわけです」。県内の牧師・園長による協議が難航する中、当時、総務省から派遣され県庁で学事文書課長を務めていた井上源三さんに直談判。教会の現状や信徒の思いを繰り返し説明し、土地の寄附ではなく貸与で学校法人化の認可が下りるよう交渉を重ねます。その交渉が実り教会の土地を貸与して学校法人化する道が開かれましたが、なお他の教会や園の反応はいまひとつ。「連合学園に加わる幼稚園がない場合は、遠野単独でも学校法人化する」と腹をくくり準備を進めることにしました。

「一教会単独では学校法人の理事会を形成するのが難しい。実現のためには他の教会へ人的な協力を仰ぐことが必要だと思いました。教会が生み出した幼稚園、教会が運営する学校法人。教会と教会が生み出した幼稚園は車の両輪だ」という点をすぐ意識しました」と連合学園を構想した当時を振り返ります。

明日へ歴史をつむぐー学園設立40周年へ



連合学園へ

遠野単独での学校法人化に傾きかけた矢先、青山町教会と青山幼稚園が学校法人への参加を決断。連合学園の構想は急きょ、現実味を帯びます。1984年には学校法人設立発起人会が開催されて、連合学園設立に向けた準備が本格化。単独から2園での学校法人化に変わり、その事務量は膨大です。しかも急ピッチで進めなければなりませんでしたが1985年3月29日、晴れて学校法人岩手キリスト教学園の設立が県から認可されました。

記念誌『遠野聖光幼稚園80年の歩み』に「連合学園は、未来を生きる幼子を中心に、父母、祖父母の保護者・家族と、各自治体・行政、各幼稚園の職員・先生方、学園の評議員・理事・監事、牧師・園長、何よりも背後にある諸教会に連なる一人ひとりの『生身の人間』どうしが、主イエスの愛の中で、『連帯・協力』し合う事であるという発見でした」と太田先生の言葉が記されています。学園の設立は「愛の発見であり、明日への決断であった」と。

学園設立と合わせ、遠野聖光幼稚園は園舎改築に向けて、同窓会を再構築。卒園児のいる世帯を一軒一軒訪ね、募金のお願いに歩きました。発送した趣意書は二千通を超え、家族全員が卒園児で三世代にわたる

趣意書がまとめて届いた家もあったといいます。ブゼル先生の時代から育まれた幼稚園に寄せる遠野の人たちの思いは厚く、新園舎建築募金は、3カ月足らずで目標の一千万円を突破。最終的には一千四百万円余が寄せられ念願の新園舎が完成しました。ブゼル先生とその周りにいた人々の深い祈りが実を結んだのでした。

共に生きることを喜びに

学園誕生から間もなく四十年。共働き家庭の増加による保育ニーズの高まりから5つの基幹幼稚園はすべて認定こども園となり、3歳未満児を対象にした保育施設も増えて新たな課題に向き合っています。少子高齢化、地球温暖化、自国ファースト主義の台頭など、世界を見ると、子どもたちの未来は必ずしも明るいとは言え切れません。そんな中、学園はどのように、この荒波を乗り切っていくべきでしょう。

「東北の地にあつてキリスト教教会は小さく、弱い存在かもしれませんが、しかし、クリエイティブマイノリティという言葉があるように、少数者の存在意義は決して小さくはない。キリスト教主義の幼稚園や保育園は、ほとんどが岩手における幼児教育のフロンティアを担ってきたわけです。教会に附属した幼児施設があるのなら、そ

れを活かして社会ともつながり、保護者や地域の方々とも結びついていくべきです」と太田先生。

「学園の運営は航海のようなもの。五艘の船（五つの教会から成る基幹園と附属施設）の安全が守られ一年を無事終えることができたら感謝です。それぞれの船の中では、もちろんいろいろあるでしょう。船に穴が空いたり、お客さんや船員同士がトラブルを起こしたり。それでも一つの船団としてパートナースhipが結ばれ、一年の旅をし、安全に港に戻り、また新たなお客さんに乗せて航海に出られることが、どれほどありがたいことか。それぞれの航海の無事を祈って、『ご安全に』『ご安心に』と声を掛け合うパートナースhipを大事にすべきです。それぞれの役割を十分に理解して、小規模、弱小の仲間が旅を続けていくことができるよう絆を深め、保つていくことが大切だと思います」と力を込めます。

キリスト教主義の幼児施設が共に掲げる理念は、キリストの愛の精神を基盤とし、豊かな個性を育みながら、子ども自ら生きる力を高め、共に生きることを喜びとする保育。「共に生きることを喜びとする」次世代を育むため、手を取り合って進んでいくことが求められています。



青山幼稚園70周年おめでとう

青山幼稚園の創立70周年記念式典と祝賀会が10月19日、盛岡市の盛岡グランドホテルで開かれました。日ごろお世話になっている地域の方々や学園関係者ら約70人が参加。神様の恵みに感謝し、キリスト教保育の確かな歩みを重ねていくことを誓い合いました。



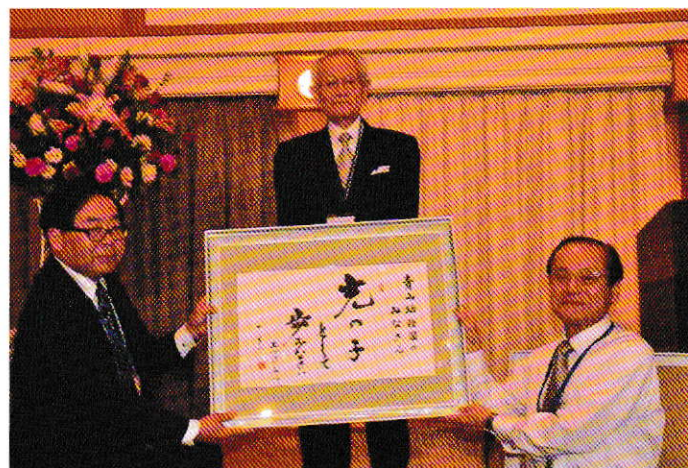
村上義治園長は「光の子となる」と題して式辞。保育理念「神を愛し人を愛する子ども」のもとで育まれた子どもたちが、困難な時代にあっても、備えられた自らの力を信じ、たくましく活躍してほしいと語りました。来賓の方々からも温かい励ましのメッセージをいただき、思いを新たにしました。

年長組の園児たちはステージ上で「ひとりひとりの名を呼んで」「世界中の子どもたちが」「にじ」の3曲を発表。未来への希望を感じさせる元気いっぱいの歌声とメッセージに、会場からは大きな拍手が送られました。

青山幼稚園は1954年9月7日に開園。2023年度までに277

9人が巣立ちました。1985年に遠野市の遠野聖光幼稚園（現・認定こども園めぐみ遠野聖光こども園）と学校法人岩手キリスト教学園を設立し、現在の学園に至る礎となりました。

遠路駆けつけてくださった第14代園長の半澤清次郎先生からはお祝いの言葉に加え「光の子として歩みなさい（エフエソの信徒への手紙5章8節）」と自ら揮毫（きごう）された額をいただきました。



左から大原敬事務長、半澤清次郎先生、村上義治理事長

青山三丁目の歌



祝賀会の中で、教職員が合唱した「青山三丁目の歌（作詞 佐藤源一郎 作曲 館野正重）」は、青山幼稚園がある青山三丁目で歌い継がれてきた愛唱歌。戦後の復興期から昭和の高度成長期にかけ、自治会活動などで歌われてきたようですが、近年、歌えるのは一部の高齢者だけ。正式な楽譜も見当たりません。この歌の存在を知った大原敬事務長が、地域の方々の歌声を頼りに楽譜をおこし、今回、歌のプレゼントとして聞いていただきました。

「我らがきづいた この町を 今日も見てるぞ 岩手富士 年寄りも（手拍子）若きも（手拍子）心は一つ さあさ ガッチリ手を組んで進むぞ進むぞ青山三丁目！」

地域への愛と励ましが込められた歌詞が一番から四番まで続きます。園児たちが歌えるようになったら、地域のお年寄りたちにも聞いてもらい交流できたら楽しいね、と夢を膨らませています。

書家 金澤泰子さん 翔子さん 講師に

青山子育て支援特別講座

青山幼稚園創立70周年を記念した青山子育て支援特別講座は11月23日、約180人が参加し、盛岡グランドホテルで開かれました。講師は書家の金澤泰子さん、翔子さん親子。ダウン症の翔子さんが魂を込めて揮毫（きごう）する書は、国内外で多くの人を慰め、勇気づけています。「涙にくれた日もあったけれど、今は心から幸せだと思える」と泰子さん。翔子さんの力強い書と、泰子さんのメッセージに触れ、改めて豊かな生き方について考えるひとときとなりました。



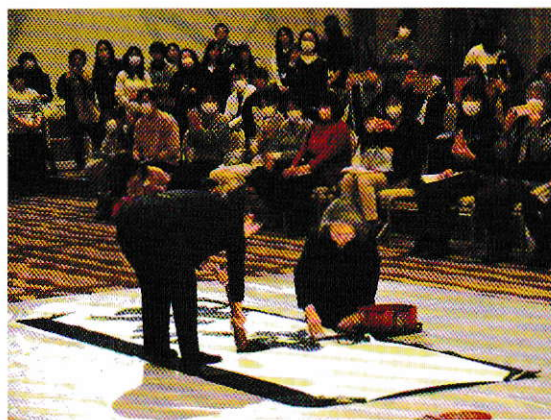
金澤泰子さん、翔子さん親子

翔子さんを42歳で授かった泰子さん。はじめは、社会に溶け込めず、学歴の世界にも入れない娘にしてあげられることは一緒に書道をするこ
とだけ、という辛苦の中で書道に没頭していました。

翔子さんが10歳の時、これまで通っていた小学校から身障児学級のある別の小学校へ転校を強いられ数ヶ月間、親子で家に引きこもったことも。

この時、取り組んだ四、五千字に及ぶ般若心経の書写が、翔子さんの楷書の基礎となり、持続力を養う結果になりました。当時、翔子さんは母親のやるせない思いを感じし、それを救おうとしているかのように、叱られ泣きながらも書写を続けたといいます。今でもこの心経には、当時の涙の跡が残っていて心打つ作品となっています。

翔子さんは30歳になった時、商店街の中に部屋を借りて一人暮らしを始めました。泰子さんは果たして一人で暮らせるだろうかと不安でたまらなかつたそうです。けれどもそれは、既成の物差しで考えた杞憂に過ぎませんでした。翔子さんは、時に失敗はあつても、まちの人に支えられながら生き生きと暮らしています。過去や将来にとらわれず、ただその時を一生懸命に生きています。迷子の猫を探す張り紙をまちで見つ



席上で揮毫する翔子さん

けた時は「公園の木の下に猫が見えるように私の名刺を置いてきたから」と泰子さんに電話がありました。翔子さんの中で人と猫の境界はありません。迷子の猫が名刺を見て助けを求めて電話をかけてくると疑いなく信じています。夜ごと月や星とおしゃべりし、困っている人がいれば助けよう、分かち合おうとします。社会の埒外（らちがい）で生き、世俗の常識にも観念にも教育にも侵されなかつたからこそ「本当の摂理とつながった」と泰子さんは考えています。

翔子さんは参加者の前で「共に生きる」と揮毫。大好きなダンスも披露し会場をわかせました。子どもたちも翔子さんと一緒に踊り、全身で楽しさを表現していました。



翔子さんが揮毫した「共に生きる」



宮古ひかり 3歳以上児による玉入れ おかたづけも協力して

心も体も健やかに！ 秋の運動会レポート

この秋も保護者や地域の方々に見守られ、各園で運動会が開かれました。種目やネーミングも各園の工夫があふれています。子どもたちの発達段階を考慮し、主体的に取り組めるよう保育者は日々、振り返りながらブラッシュアップを図っています。その一部を紹介します。

宮古ひかりの「ひかりんぴっく」（9月20日、宮古市民体育館）のテーマは「光の子として歩みなさい」（エフェソの信徒への手紙5章8節）です。まさにテーマの通り、一人ひとりの園児の姿が輝いていました。年少組の種目は「つよいぞ！すごいぞ！ピーマンマン！」。子どもたちの大好きな絵本のストーリーを展開していきます。ピーマンマンに扮した子どもたちが力を合わせると、大きなバイキンマンは退散していきました。

綱引きは、園の畑で育てている野菜を題材に、地中で根を張って生長していることをイメージしながら行います。全学年（年少・年中・長）がジャガイモチームとサツマイモチームに分かれて「ヨイショ、ヨイショ」と引っ張りあい、勝敗と同時に収穫を喜び合えるよう工夫されていました。

ひかりの子の「うんどうかい」（9月21日、紫波町総合体育館）は、保育計画の9月の主題「のびのびと」「深める」がテーマ。スタートの前に日頃の保育の様子や種目のねらいを紹介するナレーションがあり、子どもたちの発達

の過程を保護者とも共有します。年少組のかけつこの目標はゴールを目指してまっすぐに走ることに。年中組はカーブをバランスをとりながら走ることに。年長組は心をつなぐバトンをつなぐリレーと、同じ走る種目でも発達段階に合わせて目標が変わっていきます。勝ち負けよりも一生懸命張っている姿に大きな拍手が届けられました。

年長組の親子種目は「お届けものです」。親子で宅配便の配達員になりきり、くじ引きで決まった荷物の個数を二本の棒に載せて運びます。山を超え、谷を越え、橋を渡り雨をくぐってカーブし、次の親子に渡す種目です。荷物のおおきさや形は多種多様、積み上げて、バランスを取って息を合わせ、運ぶ仕事はなかなか難しい。作戦を練り、試行錯誤しながら、取り組む姿に声援が送られました。普段の積み木遊びで培われている数量的な概念（形や数、重さ、バランス等）や思考力、失敗しても協力して何度もやり直す協同性など、日ごろ保育の中で育まれている力を反映させた種目でした。

きたくり保育園 親子でバトンをつなぐリレー

ひかりの子 力を合わせ「お届けものです」





青山幼稚園 年中組のダンス

「青山幼稚園（9月28日、姫ヶ丘公園）のファミリーオリンピックは、青山三丁目町内会の協力を得て毎年、園近くの公園で行われます。連携園である上堂ホサナ保育園の2歳児のお友達も合流。学年ごとに親子種目もあり、青空の

下、家族で思う存分、体を動かすことができました。

のぞみこども園は、保護者とのふれあいを重視した0、1歳児のみの運動会を礼拝堂で開催。通常の運動会（9月21日、厨川小体育館）は2・3歳児グループと、4・5歳児グループの二部制にし子どもも保護者もゆったり参加できるようにしました。

きたくり保育園の運動会（9月21日、北厨川小体育館）は2・5歳児を対象に開催。年長組のリリースは園児と保護者が交互にバトンをつなぎ親子の絆を深めました。0・1歳児は園内で運動会ごっこを楽しみました。

各園では特にコロナ禍以降、子どもの発達や家庭の様子を考えながら、運動会の持ち方に工夫を重ねています。一人ひとりの成長を保護者のみなさんと共有しながら、次のステップにつなげていければ幸いです。

心も身体も健やかな育ちを支えてくださる神様に感謝！

「成長させてくださるのは神です」

コリントの信徒への手紙一3章6節

親子のきずな深めて

礼拝堂で0、1歳児の運動会

のぞみこども園

のぞみこども園の0、1歳児を対象にした運動会が9月6日、館坂橋教会礼拝堂で開かれました。親子で体を動かし、子どもたちの成長を喜び合いました。

運動会のテーマは「親子のきずな～ワンワンわんだ～らんど」。村上義治園長のあいさつと祈りの後、園児たちが、ワンワンのお面と黄緑色の半ズボンのかわいらしい衣装で入場し、かけっこ、ダンスなど4種目を楽しみました。

このうち「親子で冒険！いないいないばあ」は、親子で協力して手作りの車に乗ったり、キャラクターが描かれたボードに丸い印を貼り付けたりする楽しい競技。保護者に助けをもらいながらも最後までやり遂げ、ゴールするほほえましい姿に、会場からはたくさんの拍手が送られました。ゴールで先生からメダルを首にかけてもらおうと、どの子も満足そうな表情でした。

さらに、リズムカルな音楽にのってダンス。おうちの人に何度も抱っこしてもらい、親子のきずなを深めました。1歳児の母親の一人は「小さくても走ったり、踊ったりできていてびっくり。楽しかったです」と成長を実感した様子でした。

0、1歳児は、外の世界に興味がわき始め、月齢に合わせて手足の動きがどんどん活発に。信頼する大人との愛着も育まれていきます。この時期の育ちに合わせ、おうちの方とたっぷりふれあうプログラムを準備しました。一人ひとりのペースを大切に、寄り添いながら保育者も成長できればと思います。



「ひかりフラチームlea lea」ドキドキ、ワクワク、リフレッシュ

～宮古ひかり・ぶどうのき 教職員有志～

保育が終わった午後6時過ぎ、認定こども園宮古ひかりでは月2回、教職員有志による「ひかりフラチームlea lea（レアレア）」の活動が始まります。フラはハワイの伝統的な歌舞音曲。優雅にゆったりと、テンポの速い曲は明るくリズムカルに。一日の慌ただしさをしばし忘れて楽しめます。チーム名の「Lea」はハワイ語で幸せや喜び、ハッピーといった意味。練習は笑いが絶えず、体と気持ちのメンテナンス、リフレッシュにつながっているそうです。

現在チーム加入は11人。昨秋、園児の保護者でフラ・インストラクターの齊藤美香さんに「先生方もやってみませんか」と誘われたのが活動のきっかけです。齊藤さんは「女性らしい体の動きをするフラは体幹が鍛えられ、健康はもちろん癒やし効果も期待できます。先生たちは子どもたちと一緒に踊る機会が多いせいか上達が早いです

よ」と話します。齊藤さんの指導のもと1年余り活動しレパートリーは「フキラウソング」「タフアファイ」「涙そうそう」など5曲に増えました。

自分のペースで無理せず、楽しく踊ることが長続きのコツだそう。色鮮やかなスカートの衣装も素敵です。「初めてで分からないことも多いのですが、できないながらも、少しずつ踊りが仕上がってくるとうれしい。やったね、明日も頑張ろうという気持ちになります」とリーダーの倉本里美保育教諭。「ドキドキ、ワクワクしながら表現したり、みんなで踊り終わった後のうれしさを味わったりする体験は保育にも役立つと思います」と声が弾みます。

12月に地域で開かれるクリスマスイベントにも声が掛かり、初出演する予定。明るく、前向きな教職員の姿は、子どもたちにもきっと良い影響を与えるのではないのでしょうか。



練習は月2回ほど。保育を終えた後、フラの魅力を分かち合います



和気あいあい「ひかりフラチームlea lea」のメンバー。前列中央がインストラクターの齊藤美香さん

初めてのTHANKS DAY(サンクス・デー) 上堂ホサナ保育園

日ごろの園への協力に対する「感謝」を伝えながら、園について広く知ってもらおうと上堂ホサナ保育園で11月9日、「サンクス・デー」が開かれました。園内にバザーコーナーやプチ縁日、盛岡の美味しいもんアンバサダーに認定された「Hoった家」さんのオムライスなどが味わえるフードコードを開設。園児や保護者に加え、地域の未就園児家庭や妊婦さんにも参加を呼びかけ、楽しいひとときを過ごしました。

バザーコーナーには園児や教職員の家庭から寄附されたおもちゃや子ども服がずらり。親子でお気に入りのおもちゃを選んだり、おうちで利用できそうなベビー用品を探したりするほほえましい様子が見られました。プチ縁日にはヨーヨーすくいや輪投げ、お菓子やおもちゃが当たる紐くじを準備。うれしそうに何度も挑戦する子どもたちの姿に、保護者も教職員も笑顔になりました。いわて生協の組合員さんたちから子どもに安心して食べさせられる商品も紹介していただきました。

上堂ホサナ保育園は開園4年目。サンクス・デーは初の試みです。保護者や地域の方たちとつながりを深める機会を増やし、小規模園ならではの子育て支援の可能性を広げていきたいと思います。



光の子として

CS・のぞみ学童保育クラブ 「サンキャッチャー」作り

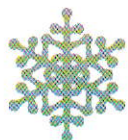


のぞみ学童保育クラブに通う小学生が7月30日、舘坂橋教会・教会学校(CS)の夏期学校に参加し「サンキャッチャー」作りを楽しみました。四角い枠の中にキラキラ光るミラーテープを輪にしたものを並べ、裏側にカラフルなセロハンを貼っていきます。輪の形の違い、セロハンの配色、見る角度によって様々な光の世界が広がる素敵な作品。よく見ると、テープの輪がハートや猫の肉球の形になっているものもあり、子どもたちの発想の豊かさがかがえました。

この光の工作は認定こども園ひかりの子の「コーナー保育」で行われていたもの。セロハンの重なりによって色が変わることや光の角度で見え方が違うことなど、子どもたちに色々な気づきを与えてくれます。

夏期学校では学園で大切にしている「光の子として歩みなさい」という聖句も学びました。神様はいつも温かい光で行く道を照らし導いてくださいます。神様の愛に育まれた子どもたちは自らも輝き、周りを照らすことができる存在に成長していきます。一人ひとりが光の子として歩み続け、皆の希望になってほしいと願っています。





伝えたい本の力

善隣館書店員&保育者

子どものころ、どんな絵本が好きでしたか？お母さんやお父さん、幼稚園の先生に読んでもらった絵本、祖父母にプレゼントしてもらった絵本、図書館で初めて一人で借りた絵本…心に残る一冊があったら素敵です。子どもたちに絵本の読み聞かせをする機会が多い善隣館書店員の大森紀代美さん、浜田陽子さんと、保育者になって2年目の藤田琉梨保育教諭、金奈々実保育教諭（ともに青山幼稚園）が絵本の魅力を語り合いました。



心に残る絵本はありますか？

藤田 小さいころから「もったないばあさん」（真珠まりこ著 講談社）という絵本シリーズが好きです。たぶん保育園に通っていたときに先生が読んでくださったのだと思います。小学校でも中学校でも目にとまれば読んでいて、保育教諭になってからも子どもたちと一緒に読んでいます。顔にごはん粒をつけた男の子がいます。おばあさんが「もったないぞ」と言って、その子の顔をなめるんです。叱るのではなく、これはよくないよね、もったないよね、ということを目白おかしなく丸くおさめる感じ。絵本って、すごいなあと感じます。

金 私は祖母がプレゼントしてくれた「ねないこのこ」（フィリス・ルート作、スーザン・ゲイバー絵、野の水生訳 フレーベル館）という絵本。眠れない小羊が牧場を探検し、遊んでいるうちに一匹ずつ眠ってしまふ。最後の一匹は、お母さん羊のふかふかの胸に抱かれて安心して眠ります。まだ文字が完全に読めないころにもらった絵本ですが、母や姉と一緒に読み、かわいい小羊と数字がページをめくるたびに減っていくのが楽しかった。

たです。



浜田 絵本と一緒に子どものころの原体験があるんですね。自分の一冊があるというのはすごく幸せで、素敵なこと。その人をつくってくれるものだと思います。子どもは好きな絵本があるのと、もう一回、もう一回とせがみますよね。読んでもらう時間が幸せを育んでいるのだと思います。

大森 絵本には、その物語だけでなく、必ず人から人へと託された「思い」の贈り物があるように感じます。金先生の思い出の一冊も、なぜ、おばあちゃんがその絵本を選んだのか、聞いてみたらいいかもね。思いが伝わっているというのは素晴らしいです。

浜田 私にも小さいころ好きだった絵本がありました。風船に乗っていろいろなまちに行くお話。青いまち、緑色

のまち、オレンジのまちとか、行く先々のまちで色のかけらをもらって最後にそれを解き放つと灰色のまちがカラフルになる。ストーリーだけ覚えていて、出版社の人にも聞いたりして探しました。結局、絶版になっていたんですが。

大森 自分が小さいころは絵本の「読み聞かせ」というのを親があまり意識していなかったと思います。それでも私が生まれて何か思うところがあったのか、家には世界名作全集みたいなものがあった。「小公女」とか「秘密の花園」とかよく読みました。その隣にひっそりとあったのが、この「だるまちゃん」とてんぐちゃん」（加古里子著 福音館書店）の絵本。今でも大事にとってあります。現実ではありえない空想の世界のお話だけど、大好きでした。雪の降る日にデパートへ買い物に行つて「ふらいばんじいさん」（作・神沢利子、絵・堀内誠一 あかね書房）を買ってもらったことも覚えています。「好きな本買っていいよ」と言われて初めて選んだ本。だから、本だけでなくそのシチュエーションごと思ひ出になっています。



左から金保育教諭、藤田保育教諭、浜田さん、大森さん



大森さんの思い出の1冊

金 大人になって探そうと思える絵本があるって素敵ですね。絵本には思い出がすごく詰まっています、大人になっても情景として記憶に残るのですね。読み聞かせをするとき、その時のためだけでなく、子どもにとって思い出に残るものを探すようにしたいし、気持ちを込めて読み聞かせができるというなあと感じます。

「読み聞かせ」の絵本を選ぶときにかけていることはありますか？

浜田 道徳的なこととか教育的なメッセージを伝えるのではなく、この場にいることが楽しいと感じられることを一番の目的にして選んでいます。絵本は一人で読むこともあるし、家族と読むこともあります。けれど、一緒に一冊の絵本を仲間と分かち合うこの瞬間は今しかない。その瞬間を親も子も単純に笑ったり、面白かったと思える本を選ぶようにしています。

楽しくて、面白いけれど深いメッセージが込められた絵本も多いですね

浜田 例えば「せかいでいちばんつよい国」(デビット・マッキー作 なかがわひろ訳 光村教育図書)は世界

中の人々を幸せにするつもりで世界中の国を征服しようとした大統領の物語。一番最後に、さもない小さな国を征服しようとはしますが、その国には軍隊もなく戦いにならない。仕方なく一緒にその国で生活を始めると、兵隊さんたちが軍服を脱いで、その国の料理を食べたり、歌を歌ったり。いつの間にか、その国の人となじんで一緒になってしまう。本当に一番強かったのは、どの国？という問いで終わる。「戦争は良くない」ということを伝えるにしてもいろいろな伝え方があると考えさせられました。

大森 謎解きしながら読んでいくわけではありませんが、短い文章の中にすごいメッセージが隠されていて、大人になつて改めて読んでハッとすることがありますね。

藤田 絵本の「読み聞かせ」をしたあと、ちゃんと伝わったか不安になることがあります。絵本の内容を端的に言葉で伝えるのも難しくて。

大森 読んであげるだけで十分。心に種をまくだけでいいと思う。

浜田 私もそう思います。よく小学校で読み聞かせをすると先生が子どもたちに感想を発表させようとはしますが、読み聞かせのプロの方たちは、それは必要ないと言います。ストーリーを全部理解していなかったとしても、それぞれ温かいものを持って帰るだけいい。

藤田 もっと、もっと子どもたちに絵本に触れてほしいという気持ちになりました。アドバイスいただいたことを保育に活かしていきたいです。

金 絵本が自分にとってどんな存在だったか振り返ることができました。絵本でしか伝えられないものもありますね。古い作品から新しい作品まで目を向けて、子どもたちと一緒に楽しみたいですね。



旬キリスト教センター 善隣館書店
盛岡市大沢川原 3-2-1 37
電話 019-654-1216

きらめきつうしん

各園から子どもたちや教職員の様子をお伝えします

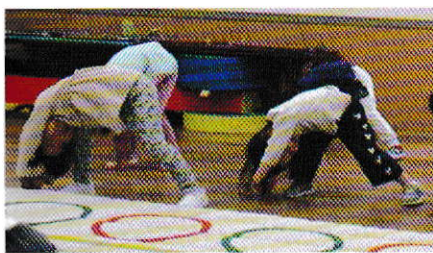
認定こども園青山幼稚園

副主幹保育教諭 吉田 沙耶香(よしだ・さやか)

できるようになったよ!

青山幼稚園は年少・年中・年長各クラス月に1、2回体育教室があり、外部講師から体を動かす楽しさを教わっています。縄跳びや跳び箱などに挑戦。その時間は、とても良い表情で汗を流しています。

10月には体育教室参観日があり、保護者の方々に教室の様子を披露する場が設けられました。子どもたちの表情を見ると「できるようになった姿を見て欲しい」「見られるの、緊張するな」と一人ひとりの気持ちの声が聞こえてくるようです。保護者の方々も応援したり、拍手したり、心配そうな表情で見つめていたり…。失敗してもあきらめない姿や笑顔で体を動かす姿を目にし、より一層、子どもの成長を感じる時間となったのではないのでしょうか。一人ひとりの成長の瞬間を大切に、保護者の方々と喜びを共有していきたいです。



認定こども園めぐみ遠野聖光こども園

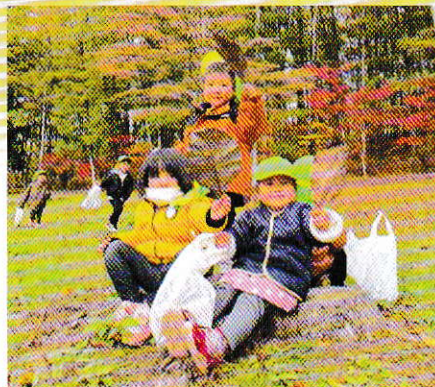
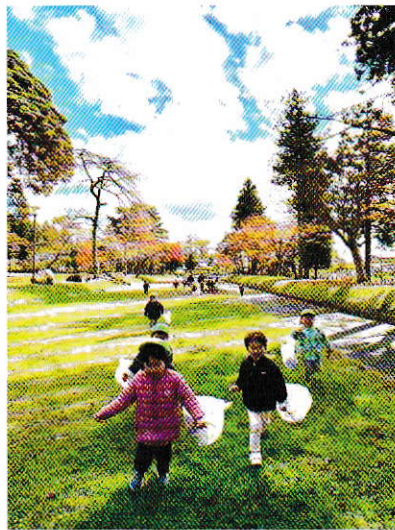
主幹保育教諭 菊池 ちあき(きくち・ちあき)

秋の自然を五感で感じて

11月6日天気にも恵まれ、2歳児15人が、園バスで遠野八幡宮に園外保育に出かけました。広い境内の中をおもいっきり走り回ったり、落ち葉を踏みパリパリとした感触を楽しんだり。松ぼっくりやどんぐりを見つけては「先生こっちにもあるよ～」と教えてくれて、持っていた袋にたくさん拾い集めていました。子ども達の生き生きとした表情がとても眩しかったです。

現代の子ども達は外で遊ぶ機会が少なくなっているように感じます。自然と触れ合うことで、好奇心が育まれ、豊かな感受性やコミュニケーション能力も自然に身についていくのではないのでしょうか。今回、園外保育での子ども達の生き生きとした表情を見て「来て良かったなあ」とつくづく感じました。

帰りには子ども達と「また来年も来ようね」と約束しました。翌日は拾ってきたもみじで、お部屋にカエデの木を製作。遠野の秋の大自然を満喫できました。



認定こども園ひかりの子

保育教諭 熊谷 茉里(くまがい・まり)

お兄さん、お姉さん先生

年長組では秋頃から、0～2歳児のクラスへ「お兄さん、お姉さん先生」として交わりを深める時をもっています。エプロンを着用するといつもより背筋が伸び、楽しみにしつつも緊張する姿が見られました。自分たちで行きたいクラスを決めて出かけて行くと、食事のエプロンを着けるのを手伝ったり、「出来る？」と優しく声をかけたりと年下の子どもたちの様子を見ながら関わっていました。

また、クラスに戻ると「手を繋いだよ!」「絵本を読んだよ」など、「先生」としてまかされて感じたことや経験したことを友だちへ伝える中で、次回への意欲へと繋がっています。小さな友だちから「ありがとう」という言葉を聞いたり、笑顔をもらったりすると達成感でいっぱいの表情を見せていました。



アガベ保育園

主任保育士 須藤 瑞穂(すどう・みずほ)

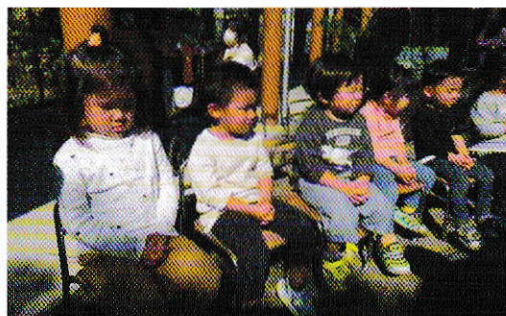
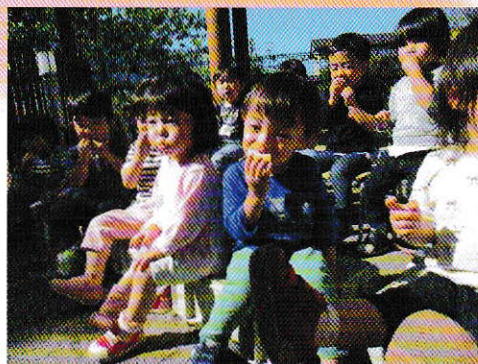
焼きいも会

～お腹も心も満たされて

秋晴れの中、アガベ保育園では地域の方をお誘いして、焼きいも会を行いました。みんなで園庭に集まり、火の約束を聞いたり来てくださった方の紹介をしたりして遊びがスタート。サツマイモが焼けるのを待ちました。

「これ見て!」「こっちに来て～」と子どもたちが声をかけると、地域の方はニコニコしながら応答して下さいます。じっくりと話を聞いてもらえることを喜び、伝える楽しさを感じている子もいました。「パチパチだって」と火の音や煙のにおい、サツマイモが焼ける香りなどを五感で感じ、期待が膨らみます。焼き上がったサツマイモは「あまくておいしいね」と話し合いながら、神様の恵みに感謝しおいしくいただきました。

青空にも恵まれた焼きいも会。地域の方も交えて、みんなで分かち合う喜びを味わい、お腹も心も満たされました。



認定こども園のぞみこども園

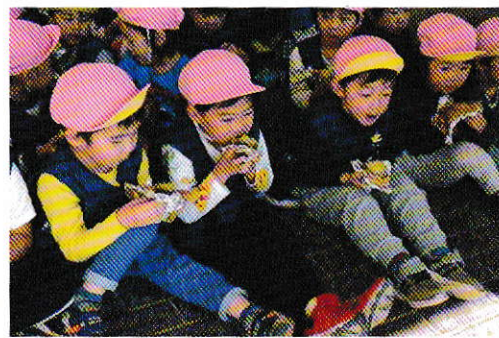
保育教諭 佐々木 彩里 (ささき・さと)

秋の実りに感謝して

のぞみこども園では、毎年焼き芋会を行っています。5月の苗植えから始まり、10月上旬には芋掘りを体験します。畑で土にふれ、生き物と出会ったりしながら全身で収穫を楽しみました。

次は、園庭での焼き芋会に向けての準備です。芋を洗って土を落とします。「へびいも」「まんまるいも」などと芋の形を見て名前を付け、観察している姿が見られました。また、岩手大学まで出かけ、焼き芋に使う落ち葉拾いをしました。「まえ おはなみで おやつたべたよね」「そのときはなびら ひろったよね」と、桜の木の下で春のことを思い出す子どもたち。春の桜色、夏の深緑、秋の紅葉と、季節の変化を感じられる大好きな場所です。

いよいよ、焼き芋会当日。園庭からの煙の匂いを楽しみながら、芋をアルミホイルで包み、焚火の中へ。焼けるまでの間には、「いもいもほりほり」のペープサートを楽しみました。そして、待ちに待ったほかほかの焼き芋をほおばり、満面の笑み！自分たちで収穫したことを喜び、実りに感謝しながら味わう機会となりました。

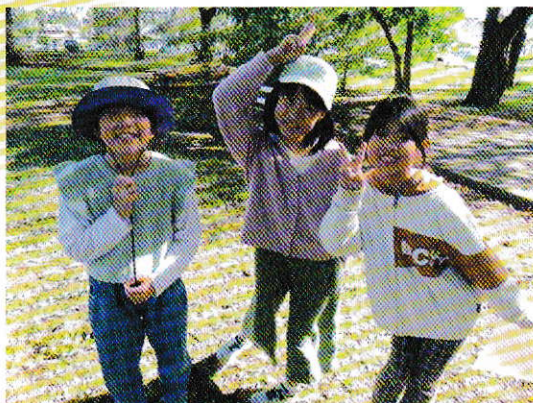


のぞみ学童保育クラブ

放課後児童支援員 早野 奈美 (はやの・なみ)

日々の成長

のぞみ学童には、1年生から6年生までの35名が在籍しています。普段は、学年の違いにより下校時間が異なるため、全員が行事に参加することが難しい時もあります。そのような中でも、みんなで誕生日を祝い、外遊びの日を増やして、異年齢交流の機会を大事にしています。長期休みになると、同じ時間を過ごすことが増えるので、生活面をはじめ、遊びを通して、下級生は上級生の優しい行動や声かけを感じながら過ごしています。協力することの大切さや思いやる心、他者との接し方を学び、引き継いでいきます。経験や学年によって「楽しいこと」はそれぞれ違うようです。しかし、「楽しむ」というのは異年齢であっても大切なことです。「楽しむ」から新しいことに挑戦し、可能性をどんどん広げている子どもたちです。私たち支援員は、そのような彼らに寄り添う働きで、喜びと誇りを覚えています。



認定こども園宮古ひかり

教頭 藤田 雅子（ふじた・まさこ）

11月、収穫感謝礼拝をしました。餅つきもしました。なぜ今の時期に餅つき？と思われた方もいると思います。幼稚園時代、餅つき会は1月でした。その頃はインフルエンザ等感染症が流行することが多く、感染拡大予防策として時期を見直すことになりました。そして収穫感謝礼拝をおこなう時期、美味しいお米が実る時に行くことになりました。餅を喉に詰まらせるリスクから取りやめになっていくことも多いようですが、日本の文化（伝統行事）に触れさせたい思いがあり、安全に注意して行っています。

臼と杵の前に集まった子どもたち。杵を見せ「これ分かる？」と尋ねると「ハンマー」「木のハンマーだね」と答えていました。蒸されたお米の匂いを吸い込むように嗅ぎ、つく前の米を味見します。つき始めは「よいしょ。よいしょ」の元気な掛け声。だんだんと粘りが出てお餅になっていく様子に「わあ〜」と歓声があがり、食べた「おかわり」コールが止みませんでした。

餅つきだけではなく、他の行事も変化しています。子どもとどのような体験をどのようにしていこうか模索していきながら、園での過ごし方、環境、行事の在り方を考えていきたいと思っています。

「木のハンマー」を持ち上げて ぺったんこ！



家庭的保育事業ぶどうのき

園長 佐々木 妙子（ささき・たえこ）

毎日の生活から



1歳児3名、2歳児2名の5人で兄弟姉妹のように過ごしています。名前も覚えて挨拶したり、泣いていると頭をなでたり、時には「あっぱ！」と怒る姿もあります。また、トイレトレーニング、衣服や靴の着脱等自分ですることが増えてきました。その他、お絵かきが大好きで描きたくなると1日何回でも自分たちで準備してお絵かきしています。毎日の散歩では、道路に落ちている実を拾い、落ち葉の上を「ザッザッ」、下り坂では「とっ」と声を出してリズムに乗りながら歩いています。ある日、川沿いを散歩していると白鷺が羽を大きく広げ舞い降りてきました。子どもたちは、目を見張り「あ、あ」と指さしをし、白鷺が中州にジャンプすると「あー!!」と声を出して感動し夢中になって見ていました。素敵な出会いを神さまありがとうございます。

上堂ホサナ保育園

保育士 石館 玲子(いしだて・れいこ)

元気いっぱい ホサリンピック

10月18日、園庭でホサリンピック（運動会）が行われました。最初の競技は、ハイハイやヨチヨチ歩きのひよこ組（0歳児）のお友達。はじめは他のクラスのお友達の視線に動きをとめてじっと見つめていましたが「大丈夫、一緒にいこう」と保育者が声をかけ、手を添えると安心してスタートしました。一人ひとりのペースを大切に競技はゆっくり楽しみながら進みます。ひよこ組のお友達が乗ったヘリコプターが動き出すと「かわいい!」「ばいばい」と自然に応援の声があがり、初めて参加したお友達も満面の笑みを浮かべていました。

続いて、こひつじ組（1歳児）。かわいいおばけに変身し、フワフワ逃げる風船おばけにジャンプや背伸びでタッチします。必死に追いかける様子が何とも愛らしく、おばけの衣装の脱ぎ着も頑張っている様子がうかがえました。ころば組（2歳児）はカッコいい消防車で出動。火元のボードに向かって、水に見立てたボールを投げ「消火」します。数回投げてついにボードが倒れると「やった〜!」と周りからも大歓声。一人ひとりの成長が感じられる笑顔いっぱいのひとときでした。



フリースクールこといろ

ひかりの子 子育て支援課長

小田中 悦子(おだなか・えつこ)

つながり

こといろが大切にしていることの一つに他者との「つながり」があります。今年は社会福祉協議会を通して民生委員の方と「魚釣り」や「運動会」を企画して地域の方との交わりの時をもち、楽しむことができました。

メンバーとスタッフで企画の話し合いをし、やってみようという実現に向けて進行やルール説明など自分たちでやってみることに挑戦しました。時には話し合いが上手くいかず悩むこともありましたが、小さな目標を掲げ、時間をかけて進めてきました。

一番に盛り上がったのは「パンくい競争」、次に「お箸で大豆を運ぼう」でした。いつの間にかみんな真剣勝負でしたが、あたたかい雰囲気の中、楽しみました。

一人ひとりが大丈夫、できたという達成感を感じ、次へのやってみようとする気持ちにつながる経験になれるよう関わっています。地域にある園としてこれからもたくさんの方々とつながりを大切にしていきたいと思ひます。



きたくり保育園

主任保育士 高橋 絵里子(たかはし・えりこ)

電車遠足



11月1日。年長クラス「いちよう組」は、園近くの厨川駅から電車に乗り、隣の青山駅近くの公園に遊びに行ってきました。去年の年長組も電車遠足に行っており、憧れていた子ども達。また普段は行けない公園への小旅行に、子ども達の胸はドキドキワクワク。当日を楽しみにしていました。あまり経験のない切符購入を自分達で行い、駅員さんに切符を切ってもらい、気分はちょっぴり大人気分。お見送りに来てくれ3・4歳クラスのお友達に「行ってきます！」と手を振り出発しました。

一駅はあっという間でしたが、みんなで電車に乗った思い出は大きなものになったことと思います。当日は、公園近くの青山幼稚園のお友達もお散歩に来ていて、一緒に遊ぶことができました。卒園まであと3か月。また一つ素敵な思い出ができました。



学園の教育・保育施設は2024年12月現在、認定こども園5施設、小規模保育所2施設、家庭的保育事業所1施設、保育所1施設です。他に学童保育クラブ1施設、フリースクール1施設を運営しています。キリスト教保育を柱に各園が連携し、地域の子育て世帯のよりどころとしての働きを目指しています。未就園児の親子等を対象にした子育て支援事業にも取り組んでいます。日程は、各園へお気軽にお問い合わせください。

●認定こども園青山幼稚園（園長 村上義治）

（保育機能施設すみれ）

盛岡市青山3-6-27

電話019-647-0223

●認定こども園めぐみ遠野聖光こども園

（園長 森分和基）

遠野市中央通り3-10

電話0198-62-2150

●認定こども園ひかりの子（園長 張仁恵）

（フリースクールこといろ）

紫波町日詰字下丸森130

電話019-672-2542

●認定こども園のぞみこども園（園長 村上義治）

（のぞみ学童保育クラブ）

盛岡市館向町21-7

電話019-624-5651

●認定こども園宮古ひかり（園長 森分和基）

宮古市西町3-3-26

電話0193-62-6845

●上堂ホサナ保育園（園長 千葉真理子）

盛岡市上堂1-4-10

電話019-656-0235

●アガペ保育園（園長 張仁恵）

紫波町日詰字郡山駅184-1

電話019-613-2635

●ぶどうのき（園長 佐々木妙子）

宮古市山口3丁目2-23

電話0193-65-6283

●きたくり保育園（園長 前田直子）

盛岡市厨川1-7-1

電話019-641-4330

学園ニュース掲示板～Information

保育ニーズに合わせ園則一部変更 第138回理事会

学校法人岩手キリスト教学園の第138回理事会が9月27日、盛岡市の館坂橋教会で開かれました。理事・評議員の辞任と就任、私立学校法改正に伴う寄附行為の変更、利用定員変更に伴う園則の一部変更、実費徴収額の変更等に伴う運営規程一部変更の計4議案を審議し可決しました。

このうち、宮古ひかりは2024年12月から「1号認定子ども」の利用定員を10人減らし35人（年少10人、年中12人、年長13人）としました。「2号認定子ども」50人（年少15人、年中17人、年長18人）「3号定員子ども」35人（0歳児9人、1歳児12人、2歳児14人）は現行のままです。

森美由紀理事・評議員（遠野聖光こども園チャプレン）は9月27日付で辞任。高橋寿雄理事（遠野教会）が9月28日付で評議員も兼任することになりました。

ハラスメント相談窓口委員会 対応マニュアルを策定

教職員の働きやすい環境を目指し、学園では外部有識者を交えてハラスメント相談窓口委員会を組織し、相談や調査に当たる態勢を整えています。近年、ハラスメントへの注目が高まっており、被害者にも加害者にもならないための取り組みが求められています。

このため、同委員会は今年度、学園独自の「対応マニュアル」を策定し、定期的な研修を重ねています。2025年1月に開催する学園研修会でも顧問弁護士を講師に迎え、ハラスメントについて学ぶ予定です。

改正私立学校法が施行 2025年4月1日から

改正私立学校法が2025年4月1日に施行されます。今回の改正は2021年ごろ相次いだ大学法人の不正事件を契機とした見直しで、実効性のあるガバナンスを目指す改革とされています。業務を執行する理事と理事会、それを監視・監督する監事や評議員・評議員会の役割、権限が整理され、明確に定められました。

改正法に合わせ役員の人数、構成も大幅に変わります。現在の理事・評議員、監事の任期は2025年6月に予定される定時評議員会終結時まで。その後は改正法に則った構成で新役員が就任します。学園の「寄附行為」は改正法に合わせて変更し、10月25日付で県から認可されました。

学園ホームページを開設

2024年12月から各園のホームページに加えて、学園公式ホームページを開設しました。アドレスは以下の通りです。ぜひ、ご活用ください

<https://iwate-christian.jp>

編集後記

私の第二の故郷、静岡県の遠州地方では「やらまいか」という方言があります。「やるならやってやろうじゃないか」というニュアンスの言葉です。今年も振り返ると、新しい課題へのチャレンジと、痛恨の反省の繰り返しでした。しかし、タイムリーにいろいろな人に助けられたり、新しい展望が開かれたり、本当に楽しい1年だったなあと思い感謝しています。2025年、いろいろな課題がありますが、「やらまいか！」の気持ちを大切に歩んでいきたいと思います。（敬）

上堂ホサナ保育園で始まったインスタのアップを楽しむ日々を送っております。先生方にしか向けられない子供達の自然な笑顔に癒やされます。私の存在を認識してもらえたら嬉しいのと、一階に降りていって子供達をのぞき見していますが、怪しい人だと思われていないか不安もあります。（小）

青山幼稚園70周年記念事業で書家の金澤泰子さん、翔子さん親子の講演を聴くことができました。汚れない心を持った翔子さん。だからこそ表現できる書。会場にいた子どもたちが翔子さんと一緒に笑顔で踊る姿に胸が熱くなりました。ピュアな初心を忘れずに歩みたいですね。（恵）

2024年度の園児・職員数（12月現在）

	園 名	3歳未満	3歳以上	合計	教職員
認定子ども園	青 山	15	63	78	23
	遠 野	32	45	77	25
	ひかりの子	49	116	165	35
	の ぞ み	44	80	124	41
	宮古ひかり	34	82	116	33
小規模	ホ サ ナ	11	0	11	7
保育所	ア ガ ペ	20	0	20	9
家庭的保育	ぶどうのき	5	0	5	4
保育所	き た く り	40	34	74	26
合計		250	420	670	203

※のぞみ学童・在籍者33人、フリースクールこといろ・在籍者5人

※青山・のぞみ、遠野・宮古ひかり、ひかりの子・アガペは園長兼任（教職員実人数200人）

※法人本部職員は青山に2人、きたぐりに1人、のぞみに1人（善隣館書店出向1人を含む）所属

※満3歳児は3歳未満に数えています

きらめき第12号 発行日／2024年12月15日

発行人／村上義治

編集／学校法人岩手キリスト教学園

法人本部：岩手県盛岡市上堂一丁目4番10号

TEL019-656-0237 FAX019-656-8672

郵便振替：02270-2-129076

名義：学校法人岩手キリスト教学園

表紙の写真：認定こども園宮古ひかりの玄関を飾るクリスマスツリー。今年初めてのアドベント礼拝が終わった後、3歳児以上のクラスの園児たちが交代で飾り付けをしました。一人ひとり好きなオーナメントを選んで思い思いの位置につるしていきます。順番を待っている園児たちからもワクワク感が伝わってきます。最後に保育者が枝にたっぷり「雪」（綿）を積もらせ完成！みんなでクリスマスの喜びを分かち合いたいです。